

---

令和4年度 第3回

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和4年2月5日 施行

---

注意事項

1. 試験開始の合図<sup>あいず</sup>があるまで、この冊子<sup>きつし</sup>の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生<sup>あいせうせい</sup>どうしの貸し借り<sup>かかしかり</sup>もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. けいたい電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子<sup>もんたいさふし</sup>の印刷<sup>いんさつ</sup>が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は16ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の①～⑩の文中の――線部のカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- ① お年玉をヨキンする。
- ② 修学旅行の前日はしっかりとキウソクを取る。
- ③ 哲学てっかくのリョウイキに関わる問題だ。
- ④ 長年のコウセキをたたえて表彰ひょうしょうする。
- ⑤ 彼は友だちをベンゴかれした。
- ⑥ トキはキシヨウ動物だ。
- ⑦ びんの口をミツペイする。
- ⑧ 彼は業界で王者として君臨くんりんしている。
- ⑨ 燃費ねんぱいの良い車に乗っている。
- ⑩ 学校の周りは雑木林だ。

二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

自分というものは、だれにとつても一番身近な存在だ。人が何を考え何を思っているのかはよくわからないし、どんな生い立ちなのかもわからない。でも、自分のことなら当然よくわかっている。

そのはずなのに、改めて自分と向き合おうとすると、どうもよくわからない。「ここにいる自分」ははつきりと実感できるのに、それをとらえようとしても、どうにも①つかみ所がない。

「自分とは何か」という問いをめぐってあれこれ思い悩む。これが(注1)アイデンティティをめぐる(注2)葛藤だ。

それに対しては、さまざまな答を出すことができる。名前、所属や社会的地位、容姿・容貌などの外見的特徴、学業能力・対人関係能力・運動能力などの能力的特徴、性格的特徴など、自己のさまざまな側面について答えることができる。

あ、このような自己の側面をいくら並べ立てたところで、「ここにいる自分」というものは見えてこない。そうしたモザイク的に並べられた自己の諸側面の背後に、自分らしさの核心がある。そんな気がするのだが、それがつかめない。紛れもなくこの人生を生きている自分というものがいるのに、その姿をとらえることができない。

この行き詰まりを脱するひとつの手段として、僕が提案してきたのが、②自己というものを実体視するのをやめることだ。自分というものをこの身体をもちここにいるものとみなすのではなく、たとえば「自分とはひとつの生き方である」とみなす。そうすると、自分を振り返るといことが、非常に具体的にになり、やりやすくなる。

そこでは、「自分とは何か」という問いは、「自分はどんな生き方をしているのか」という問いに形を変える。

自分って何だろうなどと抽象的に考えていくと、わけがわからなくなり、行き詰まってしまふ。でも、自分はどんな生き方をしているのかという問いなら、まずは自分がどんな人生を送ってきたのか振り返ればいい。い、この先どんな人生になりそうか、自分はどんな人生にしたいのかといったことをう的に考えてみればいい。

自分のことをわかってほしいと思うとき、僕たちはどんなふう<sup>う</sup>に自己を語るだろうか。ふつうは自分にまつわる過去のエピソードを語るはずだ。こんなことがあった、あんなことがあったというように、とくに自分らしさをあらわすと思われるエピソード

ソードを語っていく。

③それらのエピソードは個々バラバラに語られるのではなく、そこにはストーリー性が与えられる。

こんなことがあって、自分はその時こんなふう思った。自分はこんな失敗を繰り返してきたけど、その背後にはじつはこんな思いがあるんだ。こんな経験をしてきたが、それがその後のこんな自分につながっている。

このように、数ある過去のエピソードの中から、今のこの自分がどのようにして形成されてきたのかをわかってもらうのにも最も有効と思われるエピソード群を引き出し、それらを効果的に配列しながら語っていく。

たとえば、自分の人柄ひとがらという意味での人物像について、「内気、消極的、おとなしい、控え目、気が強い、頑固、明るい、おしゃべり、ユーモアがある、よくふざける」のように、形容詞を並べて描写びようしゃすることもできる。でも、このような個々バラバラな要素をただ羅列られつしただけだと、具体的な人物のイメージが湧わかない。

それに対して、「自分は内気で、人見知りする方で、よく知らない人の前では消極的でおとなしく控え目しているけれども、じつは強くて頑固なところがあって、親の言うことにはいちいち反発するし、また明るくユーモアがある方で、仲のよい人たちの前ではよくしゃべり、いつも冗談じょうだんを言って笑わせている」のように、各要素を具体的な場面と結びつけて描写すると、個々の要素間に有機的な結びつきができて、具体的な人物像が鮮明せんめいに浮かび上がってくる。

実際、自分のことをわかってほしくて人に語るときは、個々の要素をバラバラに並べるというよりも、具体的な人物像が浮かび上がるように、具体的場面と結びついたり、個々の要素間につながりをつけたりして語るのがふつうだ。

さらに、こんなことがあった、あんなことがあったと、具体的なエピソードが添そえられることで、より生き生きとした人物像が浮かび上がってくる。

性格心理学の生みの親とされる注3オールポートは、個人を深く理解するには、さまざまな性格特性（内向的、活動的、神経質など、性格を構成する要素）をそれぞれの程度もっているかを知るだけでは不十分だという。たとえば、支配性、外向性、自信、といった性格特性で高得点を示したとしても、その人物が好ましい指導者なのか、それともただの注4傲慢ごうまんな人物なのかはわからない。

そこでオールポートは、個々の性格特性を結びつけて具体的な人物像を浮かび上がらせるために、日記や手紙といった個人的文書を活用する必要があるという。【A】これはまさに具体的なエピソードの中にこそ人物像が生き生きと表現されていることを指摘するものといえる。【B】

生き方の心理学を展開した<sup>注5</sup>アドラーは、人が自分自身と人生に与える意味を的確に理解するための最大の助けになるのは記憶だという。【C】記憶というのは、どんな些細な<sup>ささい</sup>ことと思われるものでも、じつは本人にとって何か記憶する価値があるのだ。【D】

ゆえに、自分にまつわるエピソードを思い出し、語るとき、重要なのはエピソードそのものではなく、そのエピソードがとくに記憶され、想起され、語られたということなのだ。そのようなエピソードには、本人の生き方が反映されている。<sup>④</sup>そのエピソードが本人の人生の中で何らかの意味をもつからこそ、わざわざ記憶され、想起され、語られるのだ。

(榎本博明『自分らしさ』って何だろう?)

(注1) アイデンティティ||自分が自分であるという確信。<sup>かくしん</sup>

(注2) 葛藤||心の中でさまざまな思いがからみ合う様子。

(注3) オールポート||アメリカの心理学者。

(注4) 傲慢||<sup>ごうまん</sup>おごりたかぶって、人をあなどるさま。

(注5) アドラー||オーストリアの心理学者。

問1 — 線部①「つかみ所がない」とは、どういう意味ですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相談する相手がいない。
- イ 実力を十分に発揮できない。
- ウ 始めるきっかけがつかめない。
- エ 納得のいく答えが見つからない。

問2 — 線部②「自己というものを実体視するのをやめる」について、次の「1」・「2」の問いに答えなさい。

「1」「自己というものを実体視する」とは、どういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が何であるかを説明するために、自分の特徴のいろいろな面を並べ立てること。
- イ 自分の過去や現在に着目し、本質を身体的な特徴からだけ理解しようとすること。
- ウ いろいろな側面を並べてみただけではわからない確かな自分のかたちがあると思うこと。
- エ 自分にとって最も身近な存在は自分だから、自分のことはわかって当然だと考えること。

「2」「自己というものを実体視するのをやめ」たら、そのかわりに何をすると筆者は述べていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自己の内面のより深くにある自分の本質にせまる。
- イ 自分の過去や現在の日常の言動や将来への希望に着目する。
- ウ まわりにいる他の人たちの姿の中に自分を映し出す。
- エ 心理学の知識を用いて自分の性格を分析する。

問3 文中の空らん あ・いに入る言葉として、最も適切なものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア そして イ ゆえに ウ でも エ いっぽう オ もちろん カ たとえば

問4 文中の空らん うに入る言葉として、最も適切なものを本文中から漢字二文字でぬき出して答えなさい。

問5 —線部③「それらのエピソードは個々バラバラに語られるのではなく、そこにはストーリー性が与えられる」とありますが、「ストーリー性が与えられる」とはどういうことですか。五十字以上六十字以内で説明しなさい。ただし、句読点などの記号も字数にふくめます。

問6 本文には次の一文がぬけています。文中の【A】～【D】のどこに入れるのが適切ですか。記号で答えなさい。

逆に言えば、具体的なエピソードなしに個人の人物像をつかむことはできない。

問7 —線部④「そのエピソードが本人の人生の中で何らかの意味をもつからこそ、わざわざ記憶され、想起され、語られるのだ」とありますが、語られる理由として、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分自身の意味や自分の人生の意味を理解する助けになるから。

イ 人と人との間により関係をつくり、社会生活を楽にしてくれるから。

ウ それを語る相手の人生を豊かにするはたらきをもっているから。

エ 内気で消極的な自分を明るくて積極的な自分に成長させてくれるから。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

友梨の家では、お弁当はお父さんがつくる。会社を辞めたお父さんが家事全般を担うことになったのは三年前だが、友梨がお弁当を持参するようになったのは、高校に入った今年からだ。

お弁当作りがお父さんの担当になったのは当然といえそうだが、①友梨にとっては憂鬱だった。というのも、お父さんの料理は力が入っていたからだ。

野菜にこだわりがあるからか、彩りも鮮やかで目を引く。最近は特に、めずらしい野菜を使ったがるので、カフェコ飯みたいになっていて、教室でクラスメイトに覗かれるのだ。

「それ、もしかしてきんぴら？ 友梨のお弁当って、何でもおいしそうに見えるよね」  
単なるきんぴらゴボウでも、赤みの強いニンジンや金色のゴマで、不思議と見栄えがよくなっている。

友梨のお母さんって料理上手なんだね。センスあるね。しかし、母が専業主婦ではないとわかると、本当にお母さんがつくっているのか、と勘ぐる子もいたため、友梨はあせり、自分でつくったと言ってしまった。お父さんがつくったことは、どうしても知られたくないからだ。だからクラスでは、友梨は家庭的な子だと思われる。

「新鮮な野菜があるから。ご近所は農家ばかりだし、お裾分けをもらったりしてさ」  
「でもさ、通学に時間がかかるのに、お弁当も自分でつくって、友梨はえらいよ」

ちっともえらくなんかないから、ご飯を口の中に詰め込む。返事をしなくてすむし、クラスメイトたちの話題は、すぐ別のことに移る。

お父さんの手作りがいやで、みんなにうそをつくくらいなら、本当に自分でつくればいいのだけれど、友梨は相変わらず、お父さんの手作り弁当を持参している。結局、言い訳なのだ。自分でつくるとなると、もっと早起しなければならぬし大変だし、親に頼っているくせに、不満だなんて甘えているのはわかっている。それに、本当言うと不満なのかど

うかよくわからない。お父さんの料理はおいしいし、栄養のバランスを考えて野菜をたくさん使っているのもいい。見た目だって文句のつけようがない。

なのに、<sup>②</sup>友梨は、お父さんのことが認められない。働くのがきらいだなんてわがまま、子供みたいだと思ってしまう。いや、お父さんは怠けて<sup>なま</sup>いるわけじゃない。家にいるときは料理も掃除<sup>そうじ</sup>も洗濯<sup>せんたく</sup>も、あらゆる家事をこなしている。母親が専業主婦の家庭はいくらでもあるのだから、お父さんが家において家事をやっていたっていいではないか。

認められないのは、周囲の反応が気になるからだ。

「ねえ、友梨の家って、お父さんが主夫してるって本当？」

高校に入ってからそんなふう<sup>ま</sup>に訊かれるたびに、どきりとする。友梨と同じ中学にいた子から<sup>③</sup>小耳にはさんだの<sup>だ</sup>らう。

「ふつうに働いているけど。どうして？」

めずらしいから、単なる興味本位で訊いているだけ。だからそう返すと、興味を失って立ち去る。けれどその興味本位の質問に、「父親が無職<sup>むしよく</sup>だなんてかわいそう」という気持ちが潜<sup>ひそ</sup>んでいるのを友梨は感じてしまう。実際、「大変だね」と言われることも多い。

中学のとき、お父さんが自宅にいることを友梨が話したのは、一番仲がよかった立花芽依<sup>たちばなめい</sup>だ。彼女だけに打ち明けたのに、いつの間にかクラス中に広まってしまった。

昼間からスーパーで買い物をしている中年男性を見かけたら、友梨のお父さんじゃない？　と言われたり、お父さんに部屋を掃除してもらおうのは抵抗<sup>ていこう</sup>がないか、オネエ言葉なのかとまで、物珍<sup>めづら</sup>しいからとあれこれ訊かれるのもうんざりだった。

芽依は、友梨が秘密にしようとしたことも、自分がほかの人に話してしまったことも忘れたのか、みんなといっしょになって、友梨に「主夫<sup>ふ</sup>」の話題<sup>わ</sup>を振ることもあった。

そのうえ、主夫になってみたい？　と、わざわざ男子生徒に訊くなんて、どういうつもりだったのだろう。その男の子

は、友梨と同じ図書委員で、話すことも多かったけれど、べつに意識したこともないただのクラスメイトだったのに。

④そのとき彼が言った言葉は、ずつともやもやしたまま残っている。

えー、おれはやだよ、女は働かなくてもいいけどさ。

主婦をしているお母さんはたくさんいるのに、主夫のお父さんはめったにいない。だから友梨も、父親が家にいるということが恥ずかしい。でも、めったにいないからって恥ずかしいのはどうしてだろう。

ひいおばあちゃんの家に引っ越して、お父さんは農業をはじめようとしている。それも、みんなの家のお父さんとは違って。なのに引っ越してからのお父さんは、以前よりずっと生き生きしている。今のところ家庭菜園に毛が生えたような収穫<sup>しゅつかく</sup>しかなく、友梨たちは相変わらず母の収入に頼っているが、お父さんは食事をつくり、掃除をする。毎日、家族が快適に暮らせるよう心を砕<sup>くだ</sup>いている。お父さんがそれを楽しんでいて一生懸命<sup>けんめい</sup>なのだから、否定するのはおかしいと、友梨自身理解しているのに、周囲には知られたくないのだ。⑤「いったい、お父さんのことをどう受け入れればいいのか、いまだにわからない。」

「友梨のと、丸山<sup>まるやま</sup>のが、お弁当ツートップだね」

いつの間にか、丸山<sup>まるやま</sup>のことが話題<sup>わだい</sup>にのぼっていたらしい。みんなが深く<sup>うなず</sup>頷<sup>うなず</sup>くのを横目に、友梨は丸山<sup>まるやま</sup>太貴<sup>たいき</sup>のほうを見た。よく日焼けした彼はフットサル部で、がさつでぶつきらぼうだけれど、わりと女子には人気がある。そして彼が持参するお弁当は、友梨のお弁当みたいに華<sup>はな</sup>やかというわけではないが、料理自体に手が込<sup>こ</sup>んでいて、エビのフリッターとかミートローフとかラザニアとか、ちよつとお店で出てきそうなものだったりする。彼の母親は、かなり料理が上手なようだ。

じつと見ていると、視線を感じたのか丸山<sup>まるやま</sup>が振り向いた。友梨はあわてて目をそらす。目をそらしても、彼がこちらを見ているのを感じて、なんだか居心地が悪かった。

オタマジヤクシはやめて、ウサギとかにしない？ 手芸部<sup>ていぶ</sup>の顧問<sup>こもん</sup>の先生が言った。文化祭のバザーに出すのだから、た

ぶんウサギのほうがいい。ほかの部員だって、クマとかペンギンとか、子供も好みそうな路線だ。素直に納得し、先生がコピーしてくれたウサギの図案でつくることにした。

オタマジヤクシをおもしろがってくれる部員もいたが、たいていは、気持ち悪いと言った。お腹の渦巻きと、後ろ足がちよろつと生えているところがダメだそうだ。

吉住さんって、カエルが好きなの？ 怖くないの？

先輩に訊かれて、ちよつと失敗したなと思った。その先輩は、カエルが大の苦手だそうだから、友梨のことも変な子だと思ったに違いない。最初からウサギにしておけばよかったのに、ほんの思いつきで間が悪いことになってしまう。そういうときも、目に見えない何かがあったはずらしているのだろうか。

帰りに駅前の書店に寄ることにしたが、それもまた、（注）小鬼のいたずらだったのかもしれない。手芸本のコーナーで、友梨はぼったり芽依に会ってしまった。

同じ高校に進学したものの、クラスは別になり、芽依とはあまり話さなくなった。中学のときはあんなに仲良くしていたのに、なんとなく遠ざかってしまったのは、友梨にしてみれば、打ち明けたお父さんの秘密を周囲に話されたことがあるからだ。高校に入って、クラスに友梨の家のことを知る人がいなくなったのに、また芽依に言いふらされたくないという警戒心もあった。一方で芽依も、友梨への<sup>⑥</sup>負い目を感じていたのか、あまり話しかけてこなくなったのだ。

けれど、顔を合わせてしまえば避けようもなく、無視するわけにもいかないと立ち止まる。

「あれ？ 偶然。友梨も面白い物？」

芽依もごくふつうに話しかけてきた。

「うん、部活で使う本を買いに来たの」

「そっか、手芸部だったね」

中学のときもそうだったから、芽依が知っていても不思議ではない。友梨も、彼女がまたフットサル部に入ったと知っている。

「芽依はどうしたの？ 手芸に興味……なかったよね」

「そんなことないよ。わたしだって、何かつくってみたいなって思っただけ。ねえ、簡単なお弁当バッグとか、つくれる本ないかな」

それなら、と友梨は棚から一冊手に取る。芽依は本当につくる気があるらしく、熱心に中を確かめている。

「初心者でもできると思う？」

「これなんか簡単だよ。好きな生地を選べばいいし」

「そっか、この色でなくてもいいんだ？ うーん、何色がいいかなあ」

意外と、友梨もふつうに話せている。中学を卒業してからも毎日会っていたかのような気安さは、あっけないほど簡単に戻っている。

「芽依が手作りって、自分のじゃないよね？」

だから、芽依の考えていることもすぐにわかる。中学のころから、彼女はわかりやすい。

「まあね」

紅潮した顔を見るに、わりと本気のようにだ。

「誰？ 同じクラスの子？」

「うーん、ないしょ。片思いだし」

でもたぶん、自信がないわけではないのだろう。芽依は目がぼつちりしていてかわいらしいし、好かれて困るといふ男子はいないだろう。

「ね、生地を決めたらさ、友梨、つくるの手伝ってよ」

これは、友梨がほとんどつくることになるのではないか。でもまあいいかと思っただけなのは、芽依がうらやましく見えたからだ。うきうきしているのがうらやましい。好きな人がいるというのは、それほど楽しいことなのだろうか。

本を買って、芽依といっしょに店を出た。彼女はバス通学だから、駅前からバスに乗るのだろう。友梨は電車だ。

「友梨の新しい家、ここから電車でかなり遠いんだよね」

「途中で普通に乗り換えて、大町の近くだから、電車に乗っているのは一時間くらいかな。まあでも、通えるだけいいよ」

お父さんの仕事の都合で引越した、と周囲には言っている。べつに間違いではないと思う。芽依がそれを知っているかどうかはわからない。

「大町かあ。あのへんって、遊べるところないイメージ」

地元の感覚では、大町が一番の繁華街だ。友梨の住む粟地町はもっと何も無い。

「ないね。うちの周りは田畑ばかりだし」

お父さんの農業のことをなるべく言いたくはない友梨は、あまりアピールする気もない。それに、家の話になれば、芽依とギクシヤクすることになった原因を思い出してしまい、<sup>⑦</sup>また気ますぐなりそうだ。

(谷瑞恵『神さまのいうとおり』)

(注)小鬼のいたずら⇨友梨には、思いがけないことが起こるのは、「小鬼」のいたずらのせいだと考えるところがある。

問1 — 線部①「友梨にとつては憂鬱ゆううつだった」とありますが、なぜ友梨は憂鬱ゆううつだったのですか。その説明として、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野菜にこだわってカフェご飯のように作られた友梨のお弁当が、クラスメイトから評価ひようかされることによって父親が専業主夫である事実をあらためて思い知らされるから。

イ 専業主夫の父親が作るお弁当はクラスで注目の的となることが多いが、父親が作ったとは言えないため自分が作ったと言うしかなく、それがうそだと知られることを心配しているから。

ウ 父親が働きに出ていない事実を友人たちに知られたくない友梨は、その事実を隠かくすためにお弁当を作ったのは自分だとクラスメイトに説明しているが、うそをついでいることで、父親に対する罪悪感いまだを抱いだいてしまっているから。  
エ 働はたらきに出でず家いにいる父親のことを認められない友梨は、父親が自分のお弁当を作つくってくれているという事実を友人たちに知られたくないのに、父親の作るお弁当は力作りきさくばかりで、友人たちの関心を集めてしまうから。

問2 — 線部②「友梨は、お父さんのことが認められない」とありますが、それはなぜですか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。ただし、句読点などの記号も字数にふくめます。

問3 — 線部③「小耳にはさんだ」とありますが、どういう意味ですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 熱心ねっしんにお願いして教えてもらった

イ ないしよ話わとしてこっそり聞かされた

ウ 聞きこうと思おもっていないのに、たまたま聞いた

エ いやがるのに、強引ごういんに聞き出した

問4 — 線部④「そのとき彼が言った言葉は、ずっともやもやしたまま残っている」とありますが、それはなぜですか。

その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 彼の言葉が自分の心の中の複雑な思いをみごとに言い当てていたから。

イ 自分の家がふつうではないと彼から言われたように感じたから。

ウ 彼が女性の社会進出を否定するような人だとは思っていなかったから。

エ 芽依めいのよけいな質問のせいで、彼にきらわれてしまったように感じたから。

問5 — 線部⑤「いったい、お父さんのことをどう受け入れればいいのか、いまだにわからない」とありますが、これ

は友梨のどういう様子を表していますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外に働きに出ることもなく主夫として生活している父親が何を考なえているのかまったく理解できず、思い悩なやんでいる様子。

イ 自分はずっと家において母にだけ大変な思いをさせて、自分は楽しそうに農業に精を出している父親の感覚が理解できず、苦しんでいる様子。

ウ 他の家庭の父親と同じように、父親に外に働きに出てほしいというのが自分の願ねがいなのに、それを聞き入れてくれない父親にいらだちを覚えている様子。

エ 自分の畑で生き生きと働いている父親のことを否定してはいけなはいとは思いますが、そんな父親のことを恥はずかしいとも感じている自分をどうすべきか困っている様子。

問6 —線部⑥「負い目を感じていた」とありますが、どういう意味ですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 決して負けたくないと感じていた。

イ 自分の方が劣おとっているのではないかと感じていた。

ウ 迷惑めいわくをかけて申し訳ないと感じていた。

エ 近寄るとあぶないと感じていた。

問7 —線部⑦「また気まざくなりそうだ」とありますが、友梨は芽依に対してどのような感情を抱いていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 片想かたおもいをしている芽依がうらやましく思えて、自分もだれかと恋愛れんあいをしてみたいという気持ち。

イ 毎日会っていたかのような気安さは簡単にもどってきたが、今はとりあえず、この場を何とかやり過すごそうという気持ち。

ウ 今まで通りの関係にもどることができたため、中学のころのことを忘れ、また芽依とずっと仲良しでいたいという気持ち。

エ 友梨には、芽依の考えていることはすぐにわかるし、相手のペースに巻き込ままれたくないという気持ち。

問8 次に示すのは、国語の授業でこの文章を読んだ四人の生徒が、先生の問いかけを受けて発言したものです。この中から、本文を正しく読んでいると思われる生徒を一人選び、A～Dの記号で答えなさい。

先生「この文章における人物の描かれ方や、表現・構成上の特徴<sup>えが</sup>について、みなさんで意見を出し合ってみましょう。」

生徒A「芽依はかつて友梨との約束を破ってしまったけれど、そのことを全く気にしていない様子だし、周りに気をつかう友梨とは対照的な人物だね。」

生徒B「周りのことを考えずに自分のペースで行動する芽依の存在によって、周囲の反応が気になっていろいろなことがうまくいかない友梨の様子がより印象的に描かれているね。」

生徒C「せりふ以外の部分にも登場人物の会話を直接入れることによって、芽依との関係に悩む友梨の様子が、かえって強調されているように感じます。」

生徒D「本文が『くだ』などのように、強く言い切る形に統一されているため、父親の秘密を知られまいとする友梨の強い決意が文体からもよく伝わってくるね。」

